

清水 滝

<今回>263回目 2019年8月9日(金)16時~18時 601号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p77 輪臺

<前回>262回目(19-7-26) 出席者 9名

資料(19-07-26-1)前回のまとめ(清水)

- 2) 松野連の系図(清水)
- 3) 臺の使用例(榛葉)
- 4) 東偏僕報告(肥沼)

A 報告 7月28日多元の会定例会に先に紹介した中国の田晶氏が呉本立先生を連れて来日すると西坂氏を通じて連絡があった。前回のインターネット資料より分かりやすいかと改めて年代換算の系図を配布した。呉本立氏は1933年生まれ(86才)日本語は全く使えない。英語は流ちょうである。古田史学の古くからの会員である平野雅廣氏が新古代学 15 集に記載されたもの、国会図書館と静嘉堂に松野連系図として残っているらしい。それを明治初期の系図学者鈴木真年がまとめ上げたらしい。江戸時代の国学者塙保己一がまとめた群書類従が一番古いものではないかと富永氏がアドバイスしていた。大阪で内倉氏、福岡で上城氏に会う予定とのこと。高良玉垂宮にもいくとの計画を持っている。

B 資料 -2) 清水の論は景初 2 年の書き込みである。何がしかの史料に基づいて書かれているのなら陳寿の三國志を参考にした証拠と思うがだれも指摘していない。

-3) 今回読む「臺」の読みについて榛葉氏が苦勞して日本書紀を古田先生と同様の苦勞をされて資料化した。-4) 肥沼氏が出席されて、遺跡の位置関係からの九州王朝の盛衰を調べようとしている中間報告をされた。「方位の考古学」と命名。奈良文化財研究所のデータベース(寺院と地方官衙遺跡)を活用。建物遺跡が正方位(上が北)、西偏、東偏の推移を最近の遺蹟の多層化分析から方位の変遷を確定して九州王朝と近畿王朝の盛衰、交代期を探ろうという意欲である。質疑では論理、解釈よりも史実(遺跡の事実関係と)と現時点での結論を積み重ねてほしい意味のデイスカスが持たれた。

懇親会8名 津多屋20077円(2500・8) -77円

C 読書 p74日本の文献でさえも

- 1) 資料3に基づいて榛葉氏に読みながら資料も利用していただいた。日本書紀に15の事例がある。神代記、応神、仁徳、孝徳、天智、天武、持統紀、(一つ広神紀とあるのは応神の誤植。)①宮殿名、高臺名 12 個 ②人名 3 個。⑨、⑩は「うてな」⑫は臺久(だいく)と読む。トと読む事例は皆無。
- 2) 台は事例がある。日本書紀に興台産靈にたいして許語等武須毗という読みと注釈が日本書紀に書かれている。倭を「やまと」と読めと同様国語学者を縛っている。これは台を等(と)と読めという事である。
- 3) 臺と台は完全に別字である。7、8 世紀の日本文献に厳密の依拠するかぎり、臺を「ト」とする史料は一切ない。
- 4) 古事記と祝詞にも臺は出現しない。万葉集に 1 例ある。巻 5、896番歌山上の憶良 原野唯長夜有臺 長い夜の臺とは墓の意味。永久の夜の楼閣の意味。

次回日程 19-8-26(金) 15時から18時 603 会議室

-9-9(月) 16時から18時 601 会議室

-9-27(金) 15時から18時 602 会議室

-10-7(月) 16時から18時 601 会議室